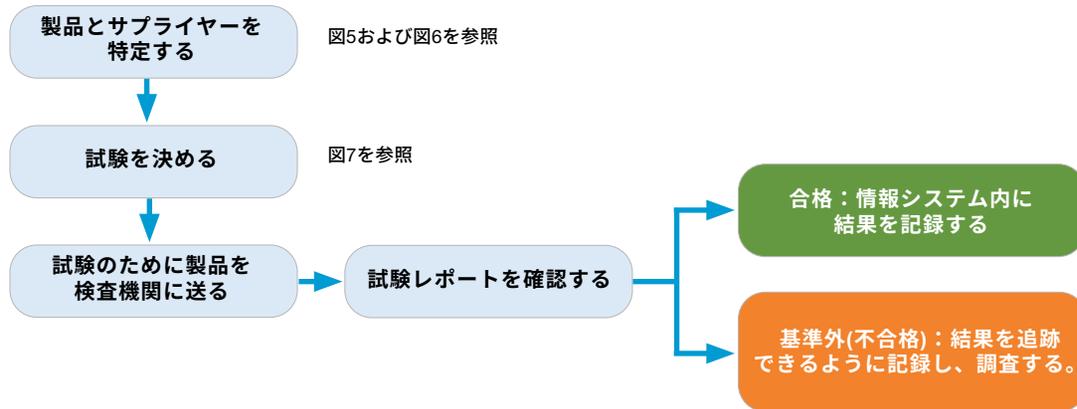


## 付表B. ブランドのためのRSL試験のモデルプログラム

この付表は、ブランドがおこなう試験プログラムがどのようなものかの例を示しています。これは、サプライヤーが、その顧客から求められるであろう試験の要求事項を理解し、それに適合した自社内での試験手順をどのように作り上げていくかをサポートするものです。知っておかなければいけないことは、どのブランドも全く同じルールでは運用していないということです。顧客の要求事項を完全に理解するために、常に顧客にルールを確認すべきです。

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <p><b>1</b> <b>ねらい</b></p> <p>化学物質に関する法令順守と最終製品の安全性を確保する</p>                                       | <p><b>3</b> <b>適用範囲</b></p> <p>この試験プログラムは、アパレル、アクセサリ、ジュエリー、フットウェア、スポーツ用具、パッケージなどを含む、ブランドの全ての最終製品に適用されます。</p> <p>また、このルールは、ブランドは付いていなくても、ブランドが法的に責任を負うべき製品にも適用されます。</p>  | <p><b>4</b> <b>序論</b></p> <p>ブランドの責任の一環として、ブランドがある程度の分析試験を実施して、製品とサプライヤーの品質を監視および証明することが重要です。サプライヤーの監査と仕様の設定だけでは、製品が合法で安全であることを確認するには不十分です。</p> <p>分析試験は品質を管理するためのツールではありませんが、この試験により得られた情報は、間接的に品質をモニターするために使えます。</p> |
| <p><b>2</b> <b>目的</b></p> <p>全ての最終製品が、安全で法に基づいたものであることを保証するため、合意された試験プログラムに基づきチェックされなければなりません。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• この製品データは、化学物質に関する法令順守や安全性を確かめるために使えます。</li> <li>• この製品データは、取引基準、裁判、メディア、消費者団体、NGOなどから異議を唱えられた場合に、法令遵守を証明し、自己防御をするための一部として使用することができます。</li> <li>• 試験結果は、管理工程が実施され、正しく機能していることを示すために、社内的に使われます。</li> </ul> |  |

図4 製品監査の手順



- 5** **手順**
- 図4は、高いレベルの製品監査手順の一般例の概略を示したものです。最初の2ステップは、次のセクションに詳細を示します。

## 6 リスク評価

正しく適切な判断をするためには、サプライチェーン、工程、製品内における化学物質のリスクを理解することが重要です。（6ページの、「化学物質のリスクを理解する」を参照してください。）

試験のルールに適合させるために、製品の組成を知ることは重要なことです。例えば、

- 皮革の部材は、六価クロム、短鎖塩素化パラフィン、アゾ染料やホルムアルデヒドが含まれる可能性があります。
- PVCコーティング加工の皮革：鉛、カドミウム、フタル酸エステルが含まれる可能性があります。
- PUコーティング加工の皮革：有機スズ、DFMaが含まれる可能性があります（同様に、天然皮革にPUコーティング加工をした場合は、DMFuが含まれる可能性があります。）

独自の試験ルールを設定する場合は、下記が必要です。

- サプライヤーごとに、どんな種類の試験を求めるかを定める。（図5を参照）
- 製品ごとに、どんな種類の試験を求めるかを定める。（図6を参照）
- 必要な化学的および物理的テストを特定する。（次ページの図7を参照）

## 7 何を試験するか決めるためのヒント

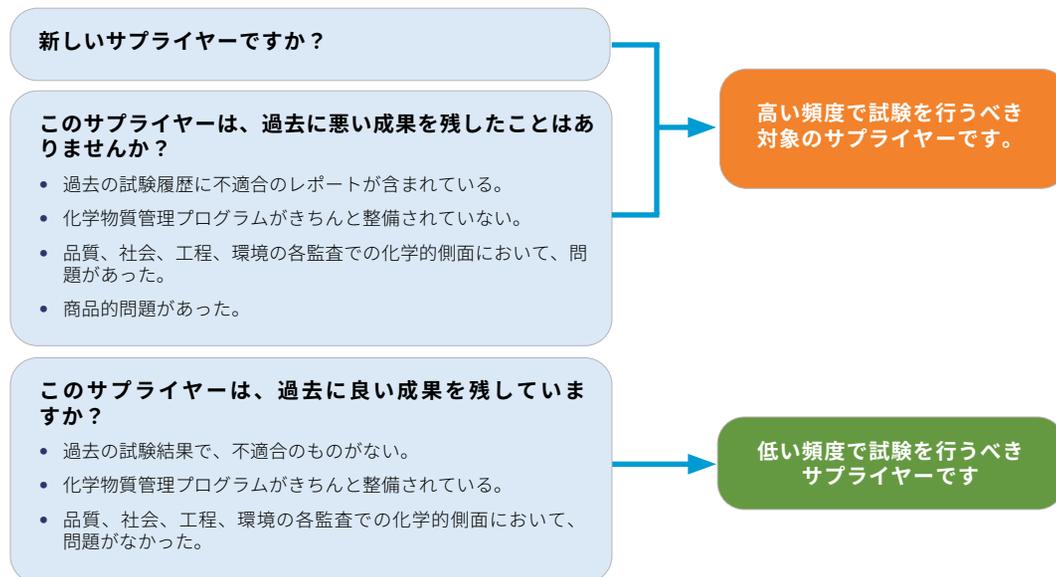
全ての新しいサプライヤーは、リスクが高いとみなし、信用がおけるようになるまでは、高い頻度で試験を行う対象とすべきです。

少なくとも、次の要求事項に対応できるサプライヤーは、低い頻度での試験実施で大丈夫でしょう。

- きちんとした化学物質管理システム（例えば、方針、社内の管理計画、証明書の取得、教育など）を持っており、かかる案件に対するブルーサイン®やZDHCの認証を得ているサプライヤー。

- 試験を実施し、長らく良い結果を続けているサプライヤー。（例えば、過去12ヶ月の間に不合格がないなど）
- 品質、工程、環境、社会の各監査の化学的側面において、長らく良い結果を続けているサプライヤー。

図5 サプライヤーのリスク評価



- 玩具と分類されている全ての製品（14歳以下の子供が遊ぶために設計された製品）は、現存する国際基準（例えば、ドレスアップ用ウエア、仮装用ウエア、ぬいぐるみなど）に基づいて試験する必要があります。それらの基準は、特に玩具として販売されていなくても、明らかに遊ぶための製品であれば、適用されます。

注意：これは化学物質への要求事項に限ったものではありませんが、いくつかの製品の安全要求事項が含まれることがあります。

- 全ての、乳児、幼児、子供用製品は、リスクが高いと考えられています。したがって、試験の頻度については、子供用の特別な制限、規制、禁止事項を考慮して決めなくてはなりません。
- 継続商品（恒久的に提供するもの）は、1年に1回、または材料や工程に変化があるたびに試験をすべきです。
- 化学物質の試験に加え、機能訴求をしている製品については、その訴求内容を証明するために、試験をすべきです。これは、化学物質への要求事項ではありませんが、法令順守を証明するために注意する価値があります。例えば、
  - ナイトウエアの難燃性
  - 防汚性
  - 防水/耐水性
  - ノンアイロン

図6. 製品リスク評価

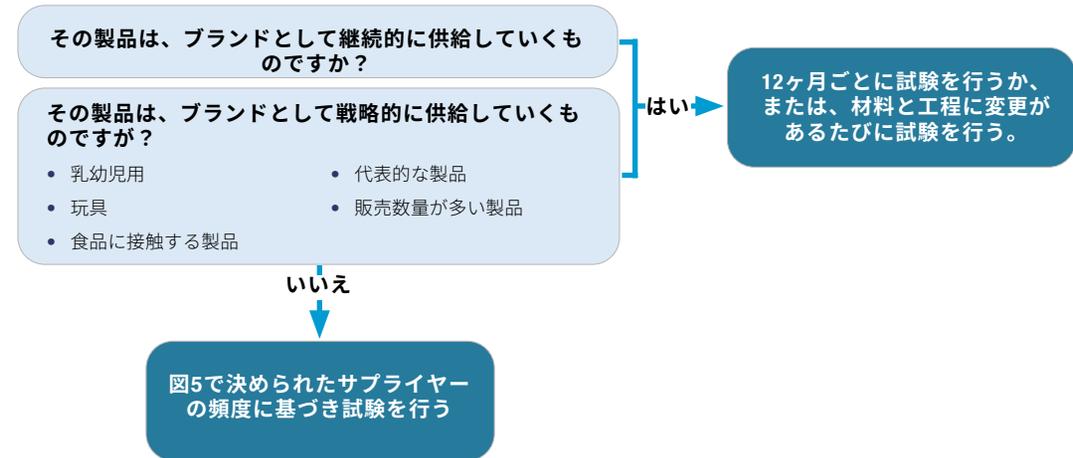


図7. 試験のリスク評価

